2026 年 10 月 23 日

わたしたちにとって「自由」とは何か

皆さんは、「自由」と聞いて、どんなことを思い浮かべますか。 好きなことができること。誰からも命令されないこと。学校の規則に縛られないこと。だれかによって、決められていないこと。そんなことを思い浮かべる人もいるかもしれません。確かに「自由」とはどこか楽しい、心躍るような気持ちになりますね。 確かに、それも自由の一つの側面でしょう。けれども、今日は皆さんに、少し違う角度から自由について考えてほしいのです。

自由とは、何でも好きなことができることでしょうか。例えば、皆さんの目の前で、誰かが友達の悪口を言っているとします。 一緒になって笑うこともできます。黙って見ていることもできます。そして、「そんなことを言うのはやめようよ」と言うこともできます。 どれを選ぶかは、皆さん自身に委ねられています。 けれども、その選択によって、誰かが傷つくこともあれば、誰かが救われることもあります。 つまり、私たちの自由には、自分だけではなく、他の人の人生にも影響を与える力があるのです。 他の人を救うことができるかもしれないけれど、もしかしたら、逆に自分が少し辛い思いをするかもしれない。皆さんが何かを選び取る時、自分が本当に大切だと思うことを自分の意志で選び取る時、そこには、単に心地よさや、楽しさ、心躍ることばかりではないかも知れないのです。もしかしたら、居心地の悪さや、痛みや苦しいを伴うということもあるのではないでしょうか。

さて、今年、教皇レオ 14 世は『人間の偉大さ』という回勅を発表されました。6 月に発表され、日本語版は 10 月に発表されたばかりで、私も現在読んでいる最中です。 回勅というのは、教皇様が世界の人々に向けて、特に大切なことを伝える文書です。 今回の回勅では、人工知能、AI が急速に発達する現代社会において、人間の「尊厳」とは何か、人間らしく生きるとはどういうことが問われています。皆さんも、AI を使うことがあるでしょう。AI は、質問に答え、文章を書き、絵を描き、難しい問題を解くこともできます。 もしかすると、皆さんが一生懸命考えるよりも、ずっと速く、立派な答えを出してくれるかもしれません。 けれども、ここで考えてほしいことがあります。 AI は尋ねた問いについて、一定の立派な答えを出してくれるかもしれません。しかし、その答えをどう使うか、何のために

使うかを決めるのは、私たち人間なのです。AI を使って、知らなかった知識を増やすこともできるし、誰かを助けることもできれば、誰かを傷つけることもできます。 AI を使う時に忘れてはならないことは、AI で何ができるか、よりも、私たちはそれを何のために使うのか、ということなのです。レオ 14 世教皇は、人間には、どれほど技術が進歩しても、決して失われてはならない「尊厳」があることを強調しておられます。 「尊厳」とは、すべての人が「かけがえのない存在」として大切に扱われること、人間の存在の価値、それは抽象的なことではなく、具体的な一人ひとりを指しています。そして、尊厳を守るということは、どこか遠い話ではなく、私たちの日常といつでも関連していることなのです。そして、その尊厳と深く結びついているのが、私たちの「自由」として「良心」なのです。 自由と良心が存在しないところに尊厳が守られることは難しいのです。一人ひとりのかけがえのない存在、すなわち人間の尊厳は、互いに、この二つのキーワードでもって、注意深く守り合わなければならないもの、自分の良心に従う自由がないところでは、人間の尊厳は存在できません。

ここで、聖書の創世記に登場する最初の物語を思い出してみましょう。 神は、人間をお造りになったとき、人間に自由意志をお与えになりました。 しかし、人間はその自由を使って、神の望まれないことを選んでしまいます。 神のように賢くなれるとそそのかされてそうです。アダムとエバの物語です。 私が子どもだった頃、不思議に思ったことは、やはり皆さんも不思議に思われているでしょうか？それは、 神は、なぜ、アダムに選択の自由意志をお与えになったのだろう、ということでした。人間が間違ったことをしないように、最初から正しいことしか選べないように創造することも、おできになったのではないでしょうか。食べてはいけない実のなる木など、そもそも最初から楽園の真ん中に置かなければよかったのです。けれども、神は置かれた。なぜでしょう。 自分の意志で相手を大切にすること、相手との信頼を育むことを選んでほしいと願われたからです。 神は、私たちが間違う可能性を知りながら、それでも自由をお与えになった。 それは、私たちが自分の意志で、大事だと思うことを、失いたくないと思うことを、愛することを、「選び取る」ことのできる存在として、創造されたからではないでしょうか。そうです。神は、我々を愛されたが故に、その愛に応える存在として、創造されたのです。私たちが自由を与えられている時、正しい道への選択も、それとは反対の選択も、両方への可能性に開かれていなければ真の自由とは言い難いのです。常に、私たちの前には二つの、あるいはそれ以上の選択肢があるということです。お互いの命、尊厳、信頼を育てていく方向か、あるいは、それらの反対の方

向か。反対の方向は何に基づいているかわかりますか？そうです。「エゴ」です。自分を中心にものごとを運ぼうとする力です。

皆さん、私たちは毎日、たくさんの小さな選択をしています。 友達にどんな言葉をかけるか。 困っている人に手を差し伸べるか。 自分の間違いを素直に認めるか。 誰も見ていないところで、正しいことをするか。 一つひとつは小さな選択かもしれません。 しかし、その小さな選択の積み重ねが、皆さん自身をつくっていくのです。 そして、皆さんの自由は、皆さんだけのためにあるのではありません。 誰かを愛するために、誰かの尊厳を守るために、そして、この世界を少しでもよい場所にするために与えられているのです。自由とは、自分の意志で、愛することを選べるということです。そして、その自由こそが、神さまが私たち人間にお与えくださった、かけがえのない贈り物なのです。 今日一日、何かを選ぶときに、少しだけ考えてみてください。 「私は今、この自由を何のために使おうとしているのだろう」と。 皆さんの自由が、皆さん自身を豊かにし、そして、誰かを幸せにするものとなることを願っています。